

勝地の1勝 意地の1勝 大谷 帯 初戦敗退も爪痕



（24日・徳島県徳島市つくぎんども
アリーナほか）

第1日は男女学校対抗（団体戦）の1〜3回戦を行った。女子は北海道覇者の帯大谷（菅原詩月主将、濱下亜美Ⅱ以上3年、江口碧、木村百華Ⅱ以上2年、金谷心美、石原綾弓、上山怜来Ⅱ以上1年）が1回戦で、3月の全国選抜大会で敗れた福岡常葉（福岡）と再戦し、1〜3で敗れた。帯大谷は9年ぶりの勝利を逃したが、個人戦にも出場するエースペアの濱下亜美・江口碧組が勝利をもぎ取り、3人の1年生も学年が上の選手を相手に食い下がり、来年の北海道インターハイに向けて希望を抱かせる戦いを見た。男子は藤原睦月（3年・帯一中出）が出場の埼玉栄（埼玉）が2、3回戦を快勝し8強進出を決めた。（岡部彰広、金野和彦）



【女子学校対抗1回戦・帯大谷―福岡常葉】先陣を切って福岡常葉に挑む帯大谷の上山怜来（右手前）と石原綾弓組

石原・上山 大舞台で一丸

○：チームの先陣を切つ 石原綾弓・上山怜来の1年生ペアは、今大会個人戦にて第1ダブルスで出場した

も出場する相手強豪3年生ペアに無念のストレート負け。共に「自分たちのプレーができなかった」と振り返る。ほろ苦の全国デビュー戦となった。

石原は4歳上の姉聡弓さん（北翔大2年）の後を追って釧路富原中から帯大谷へ。中学時代はけがなどで成績を残せなかったが、今回が小学生以来の全国の大舞台。上山は帯一中で全国団体戦8強と個人戦複出場の実力を携えて入学。共にすぐチームの大きな戦力と



【女子学校対抗1回戦・帯大谷―福岡常葉】第2ゲーム、スマッシュを打つ帯大谷の濱下亜美（左）と江口碧組

【女子】◇団体戦◇1回戦		（関係者）	
福岡常葉	3-1	帯大谷	
梶原藍美	2	石原綾弓	0
吉村来	2	上山怜来	0
恩	2	濱下亜美	2
濱地凛	1	江口碧	2
城戸美潤	1	濱下亜美	2
八木美帆	2	江口碧	2
梶原藍美	2	金谷心美	0
梶原藍美	2	江口碧	1
梶原藍美	2	江口碧	1

学校 対抗 修正力発揮 劣勢から逆転

濱下・江口組

目標としていた2勝してのベスト16進出を逃した。3月の全国選抜大会の雪辱も果たせなかった。3人の3年生の思いも届かなかったが、北海道を代表する強豪校としての爪跡は残した。

個人戦にも出場する濱下亜美・江口碧（3年・2年）のエースペアが意地を見せた。全国選抜大会で1〜2と敗

が、道大会後に1人が引退してかなわなかった。今大会初戦の2複3単にも、道大会決勝以来となる1、2年生4人が入り、3年生は濱下のみ布陣。ただ普段は部内競争がある中でライバル関係の選手たちが「大会では一つになれるのが強み」（同主将）とまとまり、目標達成を目指した。

新人チームで臨む8月の全国私立高校選抜大会へ向け、1年生のパワー、スピード不足など課題は山積しているが、濱下は「自分はインターハイに出ることしかできなかったが、後輩はみんな強い選手ばかり。来年は一つも二つも勝ってほしい」と今後の成長に期待した。

諦めず追い上げ



【女子学校対抗1回戦・帯大谷―福岡常葉】力を込めてスマッシュを打つ帯大谷の金谷心美

○：高校初の全国大会はスに会場した1年生の金谷心美は、3年生選手に競り負けた。第2Gは14〜20か挙げて追い上げたが力尽きた。

帯一中時代に全国の団体戦で8強入りし、同個人戦単にも出場した経験を持つ帯大谷の次期エース候補。第1Gは相手がサーブなどで流れを渡した。第2Gは一時8―5とリードも、そこからネット際のプレーでミスが続き連続6失点したのが響いた。空調で向かい風側となったコートでぎりぎりを狙った勝負をしたが、球をコントロールし切れなかった。

自身を「調子の波が激しい。ゼロか100しかない」と評する。今回も風に影響

面が多かったものの「前衛にいた時、パートナーに分かってカバリーできたと思う」といい面も出せた。新チームからペアが変わりライバル関係になるが、志は「絶対に帯大谷の歴史をつくり上げていくつもりだ」。

「中2の冬、新人戦個人単は優勝できたが、中3の最後は2位に終わったので」と、過去の雪辱とともに高校での大きな飛躍を目指した。

今後の目標は金道優勝。後まで諦めないでプレーした。ただ、胸を張った。